

## 今日のトピック **メキシコ銀行は11会合連続の利下げを実施 メキシコペソは景気回復を織り込み堅調な展開**

### ポイント1 **11会合連続で利下げ 政策金利は4.25%へ**

- 9月24日、メキシコ銀行（中央銀行）は金融政策決定会合を開催し、政策金利を0.25%引き下げ、4.25%としました。利下げは11会合連続で、2016年9月以来の低い水準となりました。
- 先月、同行のディアステレオン総裁が利下げの可能性を示唆していましたが、直近発表された8月の消費者物価指数が前年同月比+4.05%と、中央銀行の政策目標の上限（4%）を上回ったことから、利下げに対する見方は分かれていました。同行は、足元の物価上昇を認めつつも、1~2年先の期待インフレ率を3%と予想したことから、新型コロナの感染拡大で大幅に落ち込んだ経済に対応し、追加利下げに踏み切ったと考えられます。

### ポイント2 **新型コロナ禍によって、 景気は大幅に悪化**

- メキシコの4-6月期実質GDP成長率は前期比▲17.1%と大幅な落ち込みとなり、先月26日、メキシコ銀行は20年の実質GDP成長率見通しを▲8.8%~▲12.8%と発表しました。
- メキシコ経済も新型コロナの影響を強く受けており、今回の声明でも「経済活動は6月から7月にかけて回復し始めたものの、不確実性とダウンサイドリスクがある」と指摘されました。

### 今後の展開 **メキシコペソは新型コロナを警戒しつつ、景気回復を織り込む**

- メキシコペソは7月以降、世界的な景気回復期待の高まりを背景に反発してきました。世界経済は各国・地域の積極的な金融・財政政策によって緩やかに回復すると考えられ、メキシコペソは今後も堅調な展開が見込まれます。但し、新型コロナの感染再拡大や米中摩擦の先鋭化などからリスク回避的な動きが強まれば、メキシコペソの上値が抑制されると考えます。また、メキシコ国内の物価上昇については注意が必要と考えます。

### ここも チェック! **2020年9月17日 積極的な金融緩和策に加え、フォワード・ガイダンスを導入 2020年3月17日 新型コロナウイルスによるリスク回避でメキシコペソも下落**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

